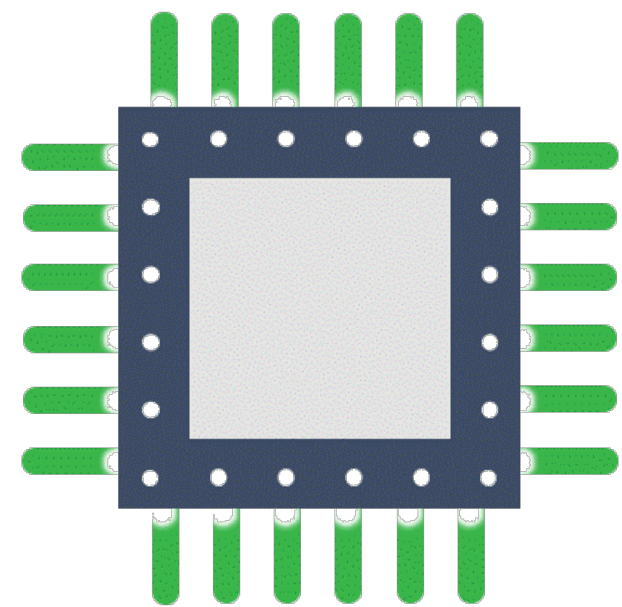




MIPS



演習資料

情報領域演習第二 C演習 第4回

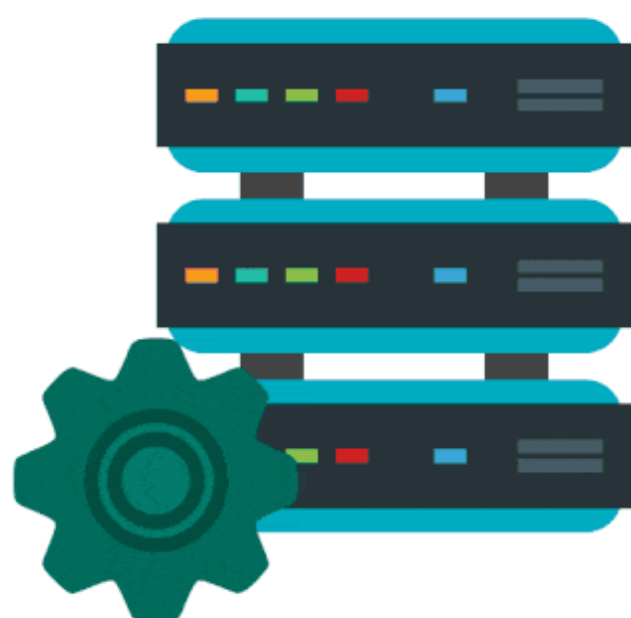
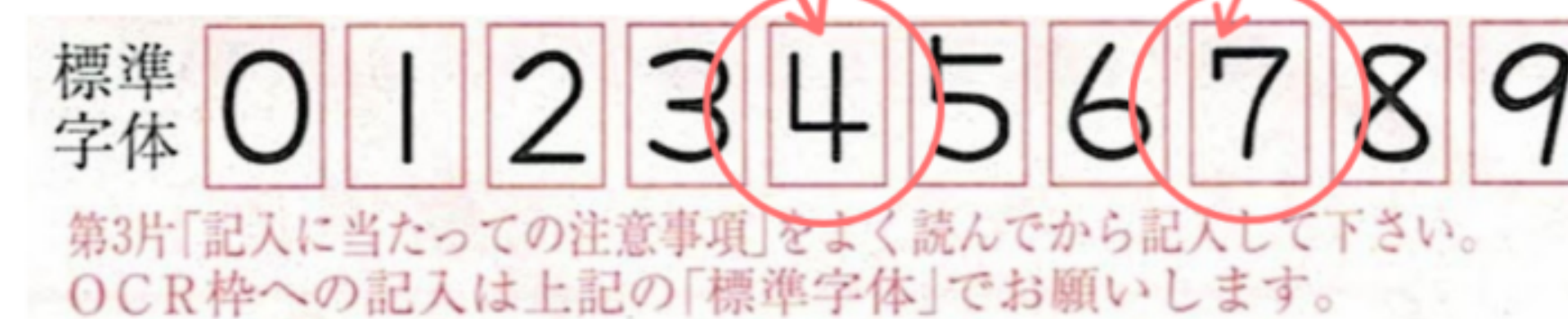
出席カード		コース	入学年度	学 年	類・学科(略号)
月 日 曜 時限		昼・夜	年度	年	
授業科目		クラス番号	クラス 番		
担当教員	教員	学籍番号			
		氏 名			

電通大

ここだけ書けば良い
数字は右例のように

あける

かぎを
つける



クラス 2 2024年7月12日1限 担当教員：高木一幸



再帰的サブルーチンの構成

```
#-----  
#  rcrsv : ある再帰的な関数f(n)の値を計算  
#          f(n) := n*f(n-1)  
#  引数 : $a0 : n   (n > 0)  
#  戻値 : $v0 : f(n)  
#-----  
rcrsv: addi    $sp, $sp, -8    # スタックに2ワードの領域を確保  
       sw      $ra, 0($sp)    # 戻り先アドレスの退避  
       sw      $a0, 4($sp)    # $a0(=n)の退避  
       addi    $a0, $a0, -1    # $a0 <= $a0-1 (n-1)  
       jal     rcrsv          # 再帰呼び出し(f(n-1)の計算)  
       lw      $a0, 4($sp)    # $a0(=n)の復元  
       mul     $v0, $a0, $v0   # $v0 <= $a0*v0 (n*f(n-1))  
       lw      $ra, 0($sp)    # 戻り先アドレスの復元  
       addi    $sp, $sp, ...   # スタックに確保した領域の開放  
       jr      $ra
```

見通しを良くしてバグを減らす

- ・ コメントにプログラム、サブルーチンの機能を正確かつ簡潔に記述
- ・ 内部処理に使うレジスタの役割分担を明確にする
- ・ 処理ステップ毎にコメント
- ・ 戻り先アドレス\$raと引数に用いる\$aレジスタ(\$a0から順に必要なものだけ)を再帰呼び出し前に退避し、戻り後に復元。内部処理用レジスタも。
- ・ ラベルは個別具体的な名称に
 - ・ loop → nxtint, prdloop
 - ・ exit → extfct, colend



C演習第4回課題

課題1 【スタック、サブルーチン】

入力された複数の整数値を入力と逆順に出力

最大値および最小値にそれぞれ "(max)"、"(min)" の注釈

その1：サブルーチン無し版 その2：サブルーチン有り版

課題2 【再帰的アルゴリズム（1）】 その1：階乗 その2：最大公約数

課題3 【再帰的アルゴリズム（2）】 ハノイの塔



<https://ja.wikipedia.org/wiki/ハノイの塔>



演習

教室での実習およびレポート課題の説明（随時公開）

詳細

#2

#4

#4



課題 1 【スタック、サブルーチン】

入力された複数の整数値を入力と逆順に出力
最大値および最小値にそれぞれ "(max)"、"(min)" の注釈
その 1 : サブルーチン無し版 その 2 : サブルーチン有り版

例) 2, -1, 5, 4, -2, 3, 0 を入力

2
-1
5
4
-2
3
0
3
-2 (min)
4
5 (max)
-1
2

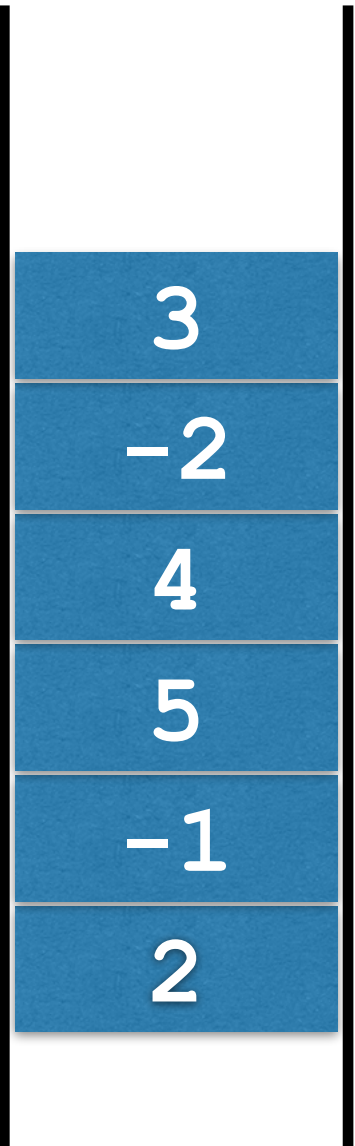
.....

.....

.....

入力が0でなければ
最小値、最大値を更新し
スタックに push

スタックから1つずつ pop
1. 数値を表示
2. 最小値、最大値と等しければ
"(max)"、"(min)" を表示



stack

例) -3, 0 を入力。

(spim) run

-3
0
-3 (max) (min)

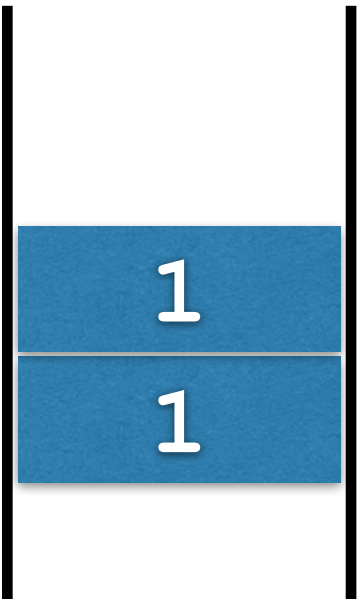


stack

例) 1, 1, 0 を入力。

(spim) run

1
1
0
1 (max) (min)
1 (max) (min)



stack

定義

階乗

$$\begin{aligned} n! &= 1 & n &= 0 \\ n! &= n \times (n-1)! & n &\geq 1 \end{aligned}$$

最大公約数 ($a \geq 0, b \geq 0$)

$$\begin{aligned} g(a, b) &= a & b &= 0 \\ g(a, b) &= g(b, a \% b) & \text{otherwise} \end{aligned}$$

ユークリッドの互除法

C

```
unsigned int factorial (unsigned int n) {
    if(0 == n)
        return 1;
    return n*factorial(n-1);
}
```

MIPS

```
#-----
# fact: 階乗計算 (再帰的サブルーチン)
#      n!=1,      n=0
#      n!=n*(n-1)!, n>=1
# 引数: $a0: n
# 戻値: $v0: n!
#-----
fact: addi $sp, $sp, ... # スタックに...ワードの領域を確保
      sw   $ra, 0($sp)  # 戻り先アドレスの退避
      ...
      jal  fact         # 再帰呼び出し((n-1)!の計算)
      ...
      lw   $ra, 0($sp)  # 戻り先アドレスの復元
      addi $sp, $sp, ... # スタックに確保した領域の開放
      jr   $ra
```

```
unsigned int gcd(unsigned int a, unsigned int b) {
    if(0 == b)
        return a;
    return gcd(b, a%b);
}
```

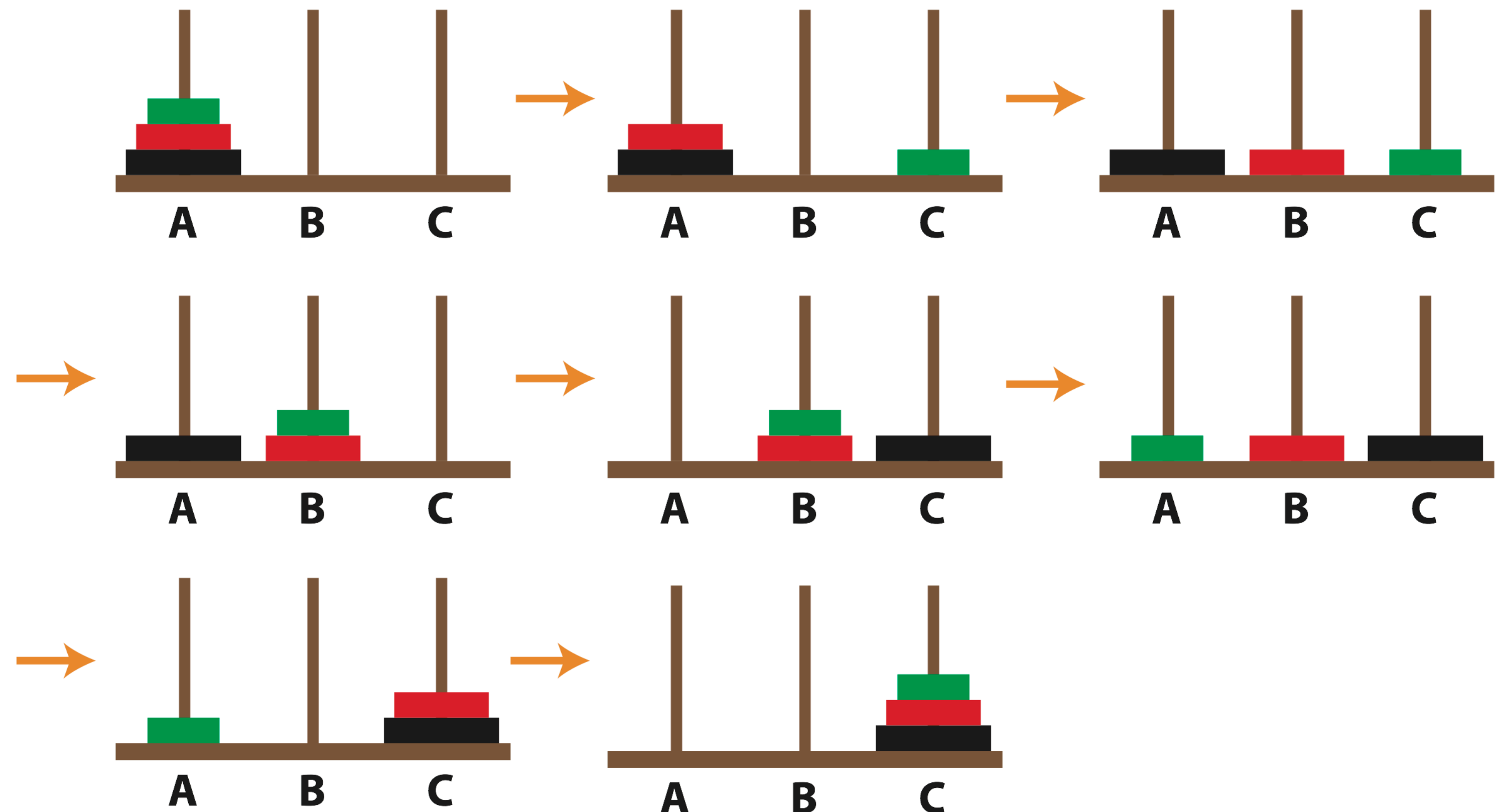
```
#-----
# gcd: 最大公約数をユークリッドの互除法で再帰的に計算
#      g(a,b)=a,      b=0
#      g(a,b)=g(b,a%b), otherwise
# 引数: $a0: a, $a1: b
# 戻値: $v0: n!
#-----
gcd:  addi $sp, $sp, ... # スタックに...ワードの領域を確保
      sw   $ra, 0($sp)  # 戻り先アドレスの退避
      ...
      jal  gcd          # 再帰呼び出し(g(b,a%b)の計算)
      ...
      lw   $ra, 0($sp)  # 戻り先アドレスの復元
      addi $sp, $sp, ... # スタックに確保した領域の開放
      jr   $ra
```


課題3 【再帰的アルゴリズム（2）】 ハノイの塔

- ・ 3本の杭（A, B, C）と中央に穴の開いた大きさの異なる複数の円盤から構成される。
- ・ 最初はすべての円盤が杭Aに小さいものが上になるように順に積み重ねられている。
- ・ 円盤を1回に1枚ずつ移動させることができるが、小さな円盤の上に大きな円盤を乗せることはできない。

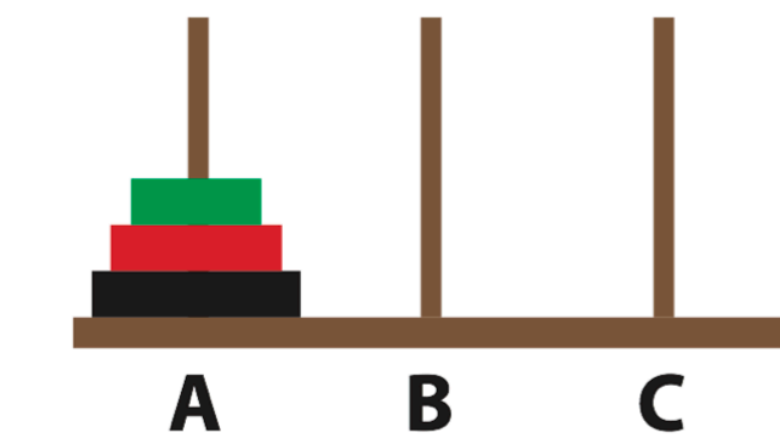
「解」は
円盤の移動手順を
羅列したもの。
”元の杭” -> “先の杭”

解	
A	-> C
A	-> B
C	-> B
A	-> C
B	-> A
B	-> C
A	-> C

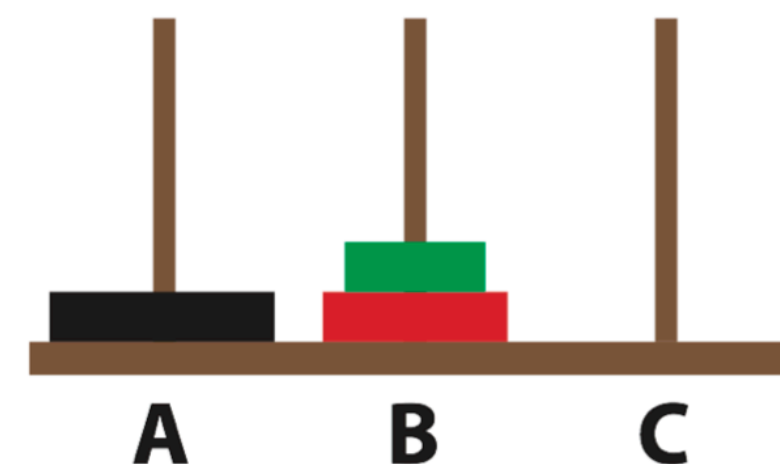


課題3 【再帰的アルゴリズム（2）】 ハノイの塔

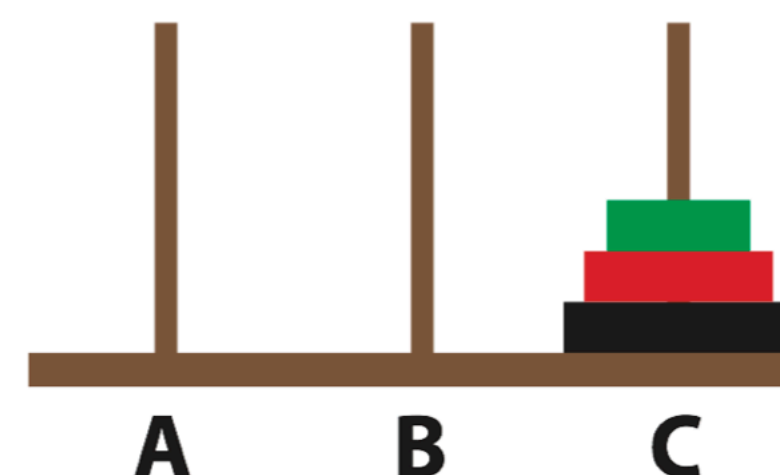
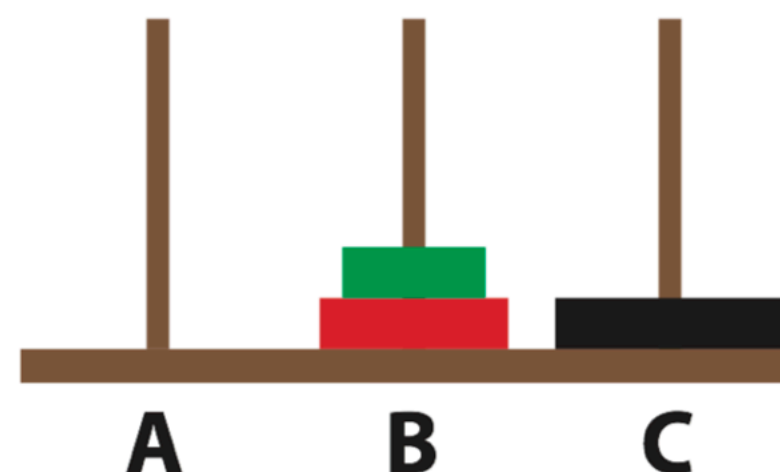
1. 上から $n-1$ 個目までの円盤を
何らかの方法でAからBに移動。



2. 残った1枚をAからCに移動。



3. Bにある円盤を何らかの方法で
BからCに移動。



```
#include <stdio.h>
```

```
void hanoi( int n,          /* 円盤の枚数      */  
            char * from,    /* 円盤の移動元の杭 */  
            char * to,      /* 円盤の移動先の杭 */  
            char * aux )    /* 残りの杭        */
```

```
{  
    if (1 == n) {  
        printf( "%s -> %s\n", from, to );  
    }  
    else {  
        hanoi( n-1, from, aux, to );  
        printf( "%s -> %s\n", from, to );  
        hanoi( n-1, aux, to, from );  
    }  
}
```

```
int main( void )  
{  
    int n;  
  
    scanf( "%d", &n );  
    hanoi( n, "A", "C", "B" );  
    return 0 ;  
}
```

メルセンヌ数 Mersenne number

2の冪よりも 1 小さい自然数、すなわち $2^n - 1$ (n は自然数) の形の自然数。
これを M_n で表すことが多い。2進数表記では、 n 桁の $11\cdots 11$ となる。

- ・ハノイの塔の最小移動回数はメルセンヌ数。
- ・ハノイの塔のゲームでは、1回動かすのに1秒かかるとしたとき、
塔の板が8枚に増えた場合、 $2^8 - 1 = 255$ であり、移動所要時間は3分15秒。
- ・ $M_{64} = 1.8447e+19$ $\cdots$ 約 $5.849e+11$ 年 (5849億年)
($2^{64} - 1$) 回 = 18,446,744,073,709,551,615 回 = 1844京6744兆737億955万1615回

メルセンヌ数のうち素数であるものをメルセンヌ素数という

(例) M_2 , M_3 , M_5 , $M_{77,232,917}$ (December 2017)

2の冪よりも 1 小さい自然数、すなわち $2^n - 1$ (n は自然数) の形の自然数。
これを M_n で表すことが多い。2進数表記では、 n 桁の $11\cdots 11$ となる。

- ・ハノイの塔の最小移動回数はメルセンヌ数。
- ・ハノイの塔のゲームでは、1回動かすのに1秒かかるとしたとき、
塔の板が8枚に増えた場合、 $2^8 - 1 = 255$ であり、移動所要時間は3分15秒。
- ・ $M_{64} = 1.8447e+19$ $\cdots$ 約 $5.849e+11$ 年 (5849億年)
($2^{64} - 1$) 回 = 18,446,744,073,709,551,615 回 = 1844京6744兆737億955万1615回

メルセンヌ数のうち素数であるものをメルセンヌ素数という

(例) M_2 , M_3 , M_5 , $M_{77,232,917}$ (December 2017)



課題3 ハノイの塔：データセグメント定義

```
#-----  
#  
# hanoiTower: ハノイの塔  
#  
# 情報領域演習第二C演習第4回（2024年7月12日）課題3  
#  
#-----  
#-----  
# データセグメント  
#-----  
  
    .data  
prmt: .asciiz    "number of disk = "    # 円盤の数は？”  
rodA: .asciiz    "A"                    # 棒A  
rodB: .asciiz    "B"                    # 棒B  
rodC: .asciiz    "C"                    # 棒C  
arrow: .asciiz    " -> "                # 矢印  
newln: .asciiz    "\n"                  # 改行文字
```



課題1 【スタック、サブルーチン】

入力された複数の整数値を入力と逆順に出力

最大値および最小値にそれぞれ "(max)"、"(min)" の注釈

その1：サブルーチン無し版 その2：サブルーチン有り版

課題2 【再帰的アルゴリズム（1）】

その1：階乗 その2：最大公約数

課題3 【再帰的アルゴリズム（2）】

ハノイの塔

C演習最終回なので、提出遅れがないように！

余裕を持って取り組み、期限厳守。

2024年7月25日（木）23:59:59

制作するMIPSプログラムは5種類です。

